

学校教育目標

「人間尊重を基盤にして、これからの社会の変化に主体的に対応し、
求めて学び、心豊かで、たくましい実践力をもった子どもの育成」

めざす子ども像

「やさしく、たくましく、共に学び、未来をつくり出す『すせんじ』の子」		
す 進んで考え、 求めて学び合う子ども（知育）	せん 先頭につけて最後まで やりぬくたくましい子ども(体育・食育)	じ 自分を大切にし、 他の人を大切にできる子ども(徳育)
<ul style="list-style-type: none"> ・学習のきまりを守りながら、じっくりと考え表現できる。 ・進んで考え学ぼうとする学習意欲を持つ。 ・自分の考えを交流し、深めたり、予知良い考えを作ったりする。 ・自分のがんばりや伸びに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を楽しみ、元気に体を動かすことができる。 ・自分の役割・責任を最後まで果たすことができる。 ・めあてをもって最後までやりとげることができる。 ・明るく元気に、安全で健康な生活をおくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめをしない、ゆるさない。 ・自分の思いや考えを適切な方法で伝えることができる。 ・友だちと楽しみながら学校生活をおくることができる。 ・人の役に立つことができる。

教育目標達成の方途

教育活動を通して実現する

【学習指導・生徒指導・人権教育・特別支援教育】

教育活動を行うしくみを整える。＝組織・計画・環境

めざす学校像

一人ひとりの個性が生かされ、心つながり合う行動力と希望のある学校

- ① 子どもが楽しいといえる学校
- ② 保護者・地域と共に「すせんじの子」を育てる学校
- ③ 危機管理が徹底できる学校

めざす職員像

子どもに温かい愛情を持ち、厳しく育てることができる職員

- ① 情熱と専門性をもつ
- ② 子どもを大切にする
- ③ 多様な人材を生かして、協同で教育を進める

- 中学校ブロックでの連携を図る。
- 学校評価を生かす。

- 保護者や地域との連携を図る。
- 関係機関との連携を図る。

本年度の重点

1 教育活動の重点

<p>(1) 学習指導の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学力向上の推進 ② 体育科や日常の運動を通した体力の向上 ③ 算数科を通した授業改善を図る取組(テーマ研究) ④ 個に応じた指導の充実と定着のための補充学習の定着(少人数及び専科指導) ⑤ ICTを活用した学習の充実 ⑥ 地域の特徴を生かした学習の推進 	<p>(3) 人権教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人権に関わる喫緊の内容について重点的に取り組む。 ② 人権認識を高める指導の工夫と学校全体での取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童への指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権課題について学習し、知識的側面の充実化を図る。 ○ 教職員の人権課題認識と人権感覚を高める研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権課題について、自ら学ぶ研修を実施する。
<p>(2) 生徒指導の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な生活習慣の確立と4つのめあての定着(4つのめあて＝あいさつ・無言清掃・右側歩行・ふわふわ言葉) ② いじめ・生徒指導の問題への迅速、正確、誠実な対応 ③ 落ち着いた環境づくりの工夫 ④ 適応指導の充実 ⑤ 食育・健康教育・情報リテラシー教育の推進 	<p>(4) 特別支援教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一人一人を大切に教育の充実 ② 支え合い、学び合う教育の充実(交流学习等) ③ 校内支援委員会の充実 ④ 特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育の推進

2 学校体制の重点

<p>(1) 安全・安心な組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急対応時における安全確保の強化に努める。 ○ 教育相談において、学級担任・SC・SSWの連携を図る。 ○ いじめ防止対策委員会を中心に、校区代表者や児童委員、民生委員との連携を図る。 ○ 学校への意見・要望に関しては、即時対応し、組織的に解決を図る。 	<p>(2) 信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の時数管理、教育内容の充実を努める。 ○ 教育計画の長期的、短期的な見通しを図り、PDCAのサイクルによって、取組の活性化を図るようにする。 ○ 学校関係者評価をもとに、取組の改善を図る。 ○ 学校課題に応じた研修を行う。また、OJTによる若手教職員の人材育成に努める。 ○ 機密文書・個人情報の保護に努める。 ○ 服務倫理の徹底を図る。
---	--